



『有馬道』をたずねて

ここで有馬道とは、姫路から湯山(有馬)に向かう道をさし、有馬街道、湯山街道、湯乃山街道ともいう。姫路城外京口門から西国街道を東進、市川を渡河して一本松(花田町)の五霊天神社前で分岐し、加納原田(花田町)・国分寺(御国野町)・深志野(御国野町)・唐畑新(飾東町)から志方(加古川市)に越え三木・淡河から摂津三本松(神戸市北区八多町)を経て湯山(明治29年有馬町に改称、神戸市兵庫区有馬町)に至る。湯山からは船坂(西宮市山口町)を経て生瀬(西宮市)で巡礼道と交差、小浜(宝塚市)で大坂街道と交差、摂津池田(池田市)で西国街道と交差し、池田から京・伏見に至るので西国街道の脇往還に位置した。



天保播磨国絵図(国立公文書館デジタルアーカイブ)

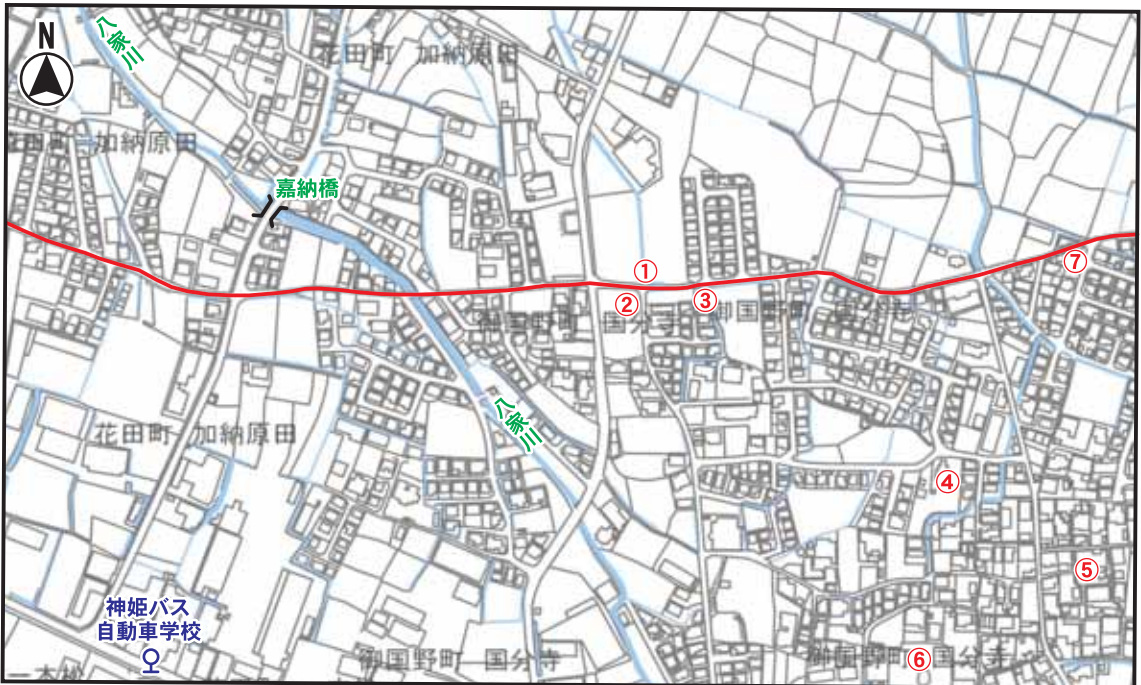
なお、江戸時代の国絵図では西国街道は神屋村で丹波道が分岐して小川村に渡河(歩渡し)、東市之郷村で有馬道が分岐して一本松村に渡河、西国街道は山脇村に渡河している。(市域の西国街道は「文化財見学シリーズ」75-77 参照)

<図1>



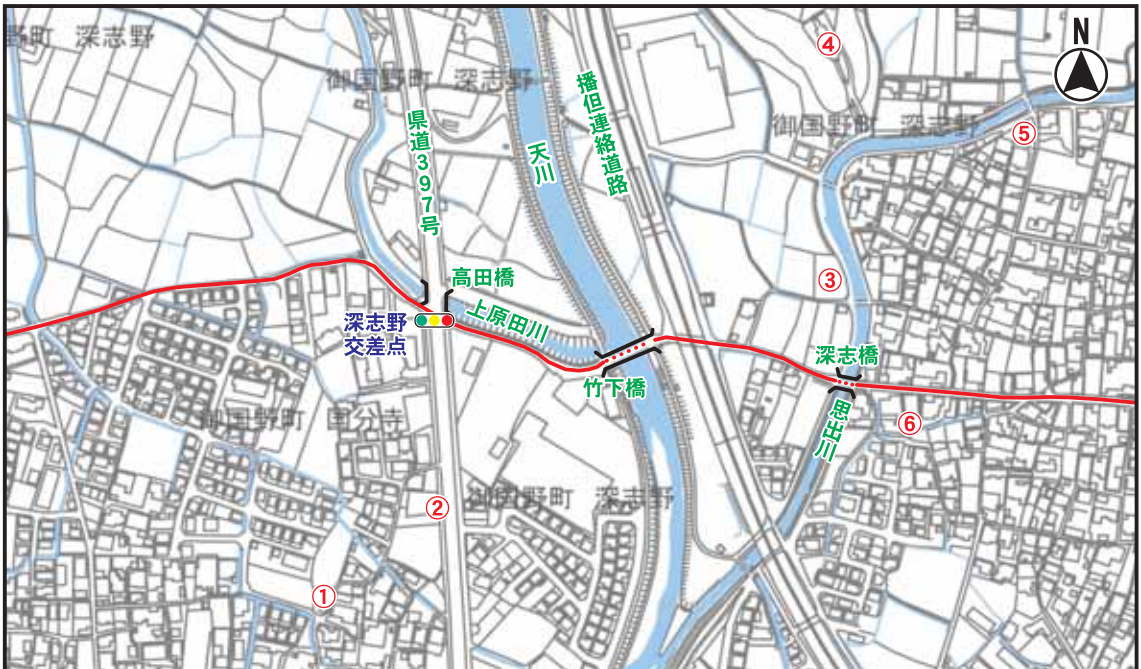
①市川の渡し場推定地 ②明治36年(1903)道標(正面:右大阪神戸、右側面:丹波有馬、左側面:明治三十六年十一月)
③五霊天神社(一本松の鎮守、旧村社格、もと九所御霊天神社の御旅所という、「花田史誌」に天和3年(1683)藩主本多忠国より宮地の除地をうけ市ノ郷九所御霊天神社より勧請したことを記す) ④黒坂大明神 ⑤観音堂 ⑥一本松墓地(室町後期の凝灰岩製地蔵尊、寛政元年(1789)吉祥院在我(五霊天神社社僧)墓碑) ⑦本覚寺(山号龍山、真言宗金剛院派、「花田史誌」に万治2年(1659)創建・浄土宗) ⑧行者堂(本覚寺行者堂、役小角・不動明王・弘法大師を祀るが、もとは数年にわたる不作に続く大洪水で困窮した加納原田村を寛延2年(1749)年貢免除などで救済した藩主酒井忠恭・家老河合定恒・奉行金沢清右衛門の神霊が祀られ団子祭が行われていた。寛延2年銘の水盤が遺る) ⑨加納神社(加納原田の鎮守、旧村社格、当地開発に掛かる加納大神を祀る、寛延2年村を救済した三恩人を祀る小祠(現行者堂)を建立した)

<図2>



- ①道標（正面：地藏坐像浮彫・南御着、左側面：東ありま、右側面：西ひめじ、背面：北たじま）②下ノ茶屋跡推定地
 ③播磨国分尼寺跡参考地碑（播磨国分尼寺の推定遺構は東西約134m、南北約180m、13世紀初頭に消滅）④天満神社（旧国分寺村の鎮守、旧村社格、大正7年(1918)大歳神社を併祀し天神・大歳神を併祀する。壇場山古墳墳丘上に鎮座していたが平成11年(1999)現在地に遷座）⑤西福寺（浄土真宗本願寺派、天文8年(1539)創建、開基了玄、宝暦12年(1762)木仏寺号）⑥山之越古墳（約100m南の壇場山古墳の第三古墳、一辺約50m、高さ約8mの方墳、5世紀半ば頃の築造）⑦一里塚跡推定地

<図3>



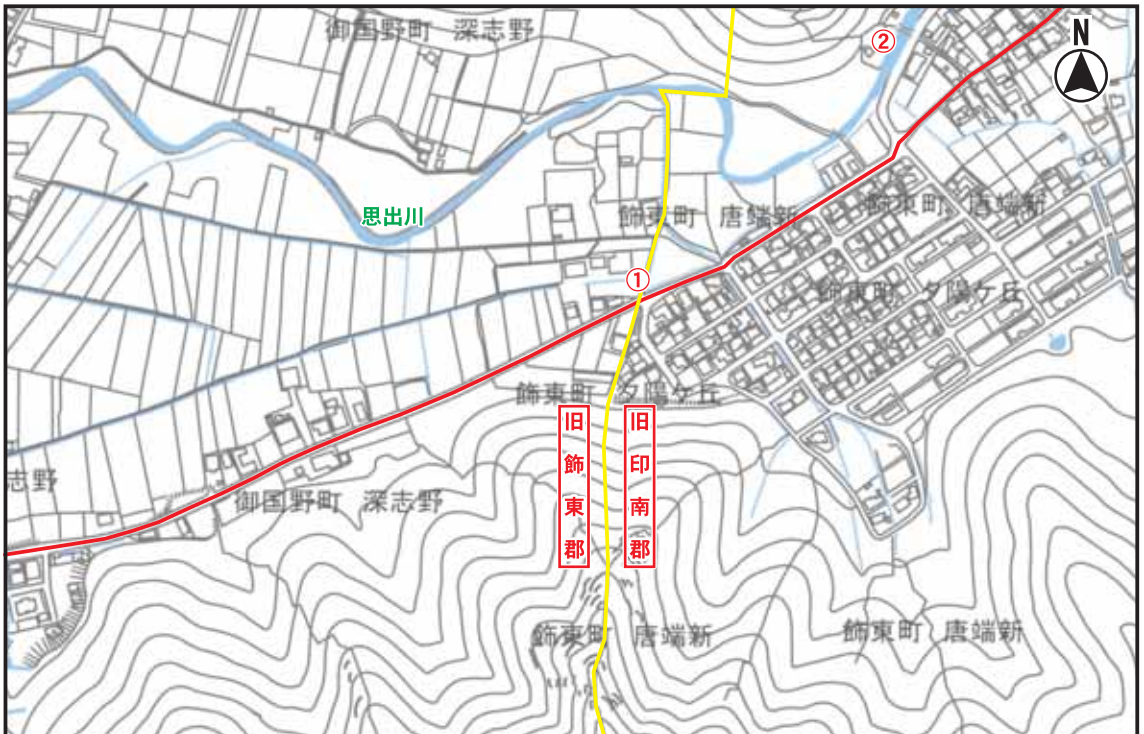
- ①子安延命地藏堂 ②国分寺構居跡推定地（「飾磨郡誌」に領主原田氏、享禄3年(1530)庄山城の戦いで討死と記す）③真福寺跡(大永7年(1527)石棺仏(西側、阿弥陀像像高31cm、凝灰岩製)・室町期の石棺仏(東側、地藏像像高46cm、凝灰岩製)、文化3年(1806)地藏坐像、江戸時代の十三仏塔・地藏坐像三界万霊台石) ④妙見神社・深志野構居跡(妙見神社は西の宮ともいい「播陽里翁説」に牛堂山(国分寺)先住僧ヨウクハンが但馬から妙見を勧請したと記す。文化11年(1814)鳥居。深志野構居は同書に御着の枝城、領主小寺孫四郎、又小寺官兵衛と記す。) ⑤五社の宮(明和元年(1764)石燈籠、賀茂明神を祀り「播磨鑑」に大永6年(1526)雨乞いに効ありと記す) ⑥堂の庭地藏尊(永正10年(1513)凝灰岩製板石浮彫地藏立像像高42cm)

<図4>

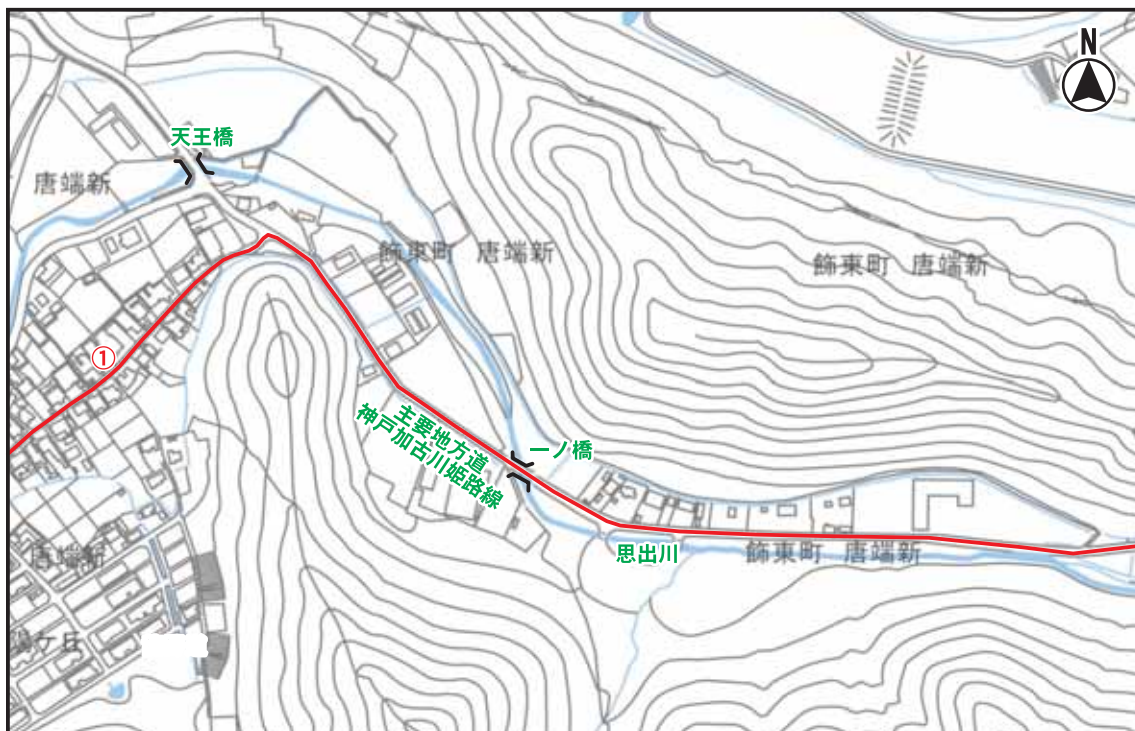


①明源寺(浄土真宗本願寺派、天文20年(1551)創建・開基玄超・元禄14年(1701)木仏寺号) ②大歳神社(深志野の鎮守、東の宮ともい旧村社格、文政10年(1827)石燈籠一对、昭和9年燈明講中奉納大歳神社参拝図) ③安永5年(1776)道標(深志野共同墓地、石造地藏坐像台石(正面:為積清休菩提 右御着道 左法花山道、左側面:安永丙申年八月、右側面:右ひめじ 左ありま)、石製覆屋(左側面:北ほつけ山 南ごちやく、右側面:右ひめじ 左ありま、背面:大正十三年十二月、当村中世話人(略)) ④享保12年(1727)念仏講中建立石造地藏立像 ⑤昭和33年(1958)建立開拓記念碑 ⑥昭和11年(1936)建立外婆池築造記念碑(外婆池は図7大谷池から約600m 東) ⑦御着道 ⑧豊国に至り丹波道(巡礼道)と交差、御着から北上する但馬道とみられる。

<図5>



①飾東郡・印南郡郡境 ②八幡神社(唐端新の鎮守)



①紫高地蔵尊



①平成 8 年(1996)唐端新自治会の唐端藤蔵功碑再建碑(復元された明治 29 年(1896)亀山雲平撰「唐端新村開墾紀功碑」碑文に天保 7 年(1836)唐端藤蔵が 4 年の歳月を費やし大谷池を築造し開墾した苦勞を顕彰) ②唐端藤蔵が唐端新村開墾のため築造した大谷池